

三冊 大学院連合メンタルヘルスセンター学外実習



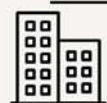
特定非営利活動法人 大学院連合メンタルヘルスセンター（MHC）にて学外実習を行いました。

大学院連合メンタルヘルスセンターは、働く人がいきいきと働くことができる社会の現実に向けて、メンタルヘルスの分野から**法人や団体等にセミナー事業、また事業所へのストレスチェックや相談業務**を実施されています。心理学専攻の学部生や大学院生を対象とした実習も実施されており、**メンタルヘルスに対する支援を行う公認心理師、臨床心理士等の養成および支援**もされています。



実習指導者の先生のお話

代表理事の三戸先生のご講義では、大学院連合メンタルヘルスセンターや労働の歴史などについてお話しいただきました。心理職として働く人を支援するためには、**心理学の幅広い知識を得ることの必要性や、実際の労働現場を観察して、現場を知ることの重要性**について学ぶことができました。支援するためには、**働く人の心だけではなく、職場環境やその職場内での人間関係も知ることが大切**なのだと感じました。



路地カフェ・こはる苑について

三戸先生のご講義後に、**簡易版のストレスチェック**を体験させていただきました。その後、**路地カフェとこはる苑**を見学させていただきました。こはる苑は、社会福祉法人こはる福祉会が経営されている、**知的障害のある人たちと彼らを支える人たちが共に楽しく働き学ぶ場**です。こはる苑では、あたたかな雰囲気の中**ひとり一人にあったやり方で作業**をされていました。また路地カフェでは、こはる苑のメンバーが働いており、お菓子作りの作業場を見せていただきました。働く人が働きやすくするために工夫がされていることを知り、**実際に現場を知ることの重要性**を改めて感じました。

編集後記

大変お忙しい中、ご講義いただきました三戸先生、そして見学させていただきました路地カフェ、こはる苑の皆さまに、心より感謝申し上げます。

作成：嶋田 写真撮影：阿藤





大阪市立心和中学校での学外実習



大阪市立心和中学校にて学外実習を行いました。

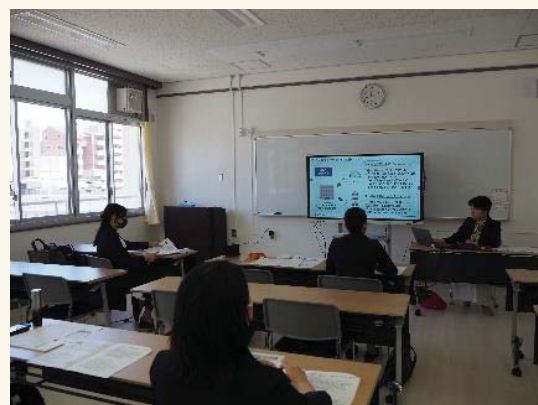
心和中学校は、**不登校を経験した中学生の通う「昼間部」と義務教育終了の年齢を超過した方々の通う「夜間部」**の2部制を敷く中学校として令和6年4月1日に開校されました。昼間部に関しては、**学びの多様化学校**（いわゆる不登校特例校）として文部科学省の指定を受けています。



実習指導者の先生のお話

盛岡校長先生のご講義では、教育方針などについてお話していただきました。勉強に囚われず、**生徒一人ひとりの関心に合わせて個性を伸ばすキャリア教育の大切さ**を学びました。

良原先生のご講義では、スクールカウンセラーの立場や役割などについてお話していただきました。**学校における主役は生徒と教員であること**を学びました。心理職としては、学校が学びの場であることを前提とした支援が必要なのだと感じました。



施設について



学校内を見学させていただきました。教室や図書室などの空間デザインや商品提供に「イケア・ジャパン」が協力しています。机には仕切りがついていて個人のスペースが守られていました。また、寝椅子やぬいぐるみが置かれている部屋もありました。過ごす場所は、生徒の都合で選べるようになっていそうです。**生徒の安心と安全、自由が守られる空間**が広がっていました。

編集後記

大変お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただきました盛岡校長先生、良原先生、大阪市立心和中学校の皆様にご心より感謝申し上げます。

作成：阿 蘓 写真撮影：光岡



神戸アドベンチスト病院での学外実習



神戸アドベンチスト病院は、「**キリストの愛と確かな医療をもって心と体のいやしをめざします**」の理念の下に、単に身体の治療だけではなく、人間全体の癒しを目指した支援を行っています。

そして、急性期病院としての一般病棟、産婦人科などと幅広い医療機関が設置された病院ですが、今回はその中でも、**病気の根治的な治療を行うのではなく、患者さんやご家族の精神的な不安を取り除く支援を行うホスピス病棟**についてのお話を伺いました。



実習指導者の先生のお話

山形謙二先生のご講義では、緩和ケアの理念や重要性などについて伺えました。**健康の回復ではなく、生きる意味や希望を見つける事を目的とした支援**である事を学び、**最後まで患者さんが自分らしい生活を送れるように気遣い、配慮するケアの重要性**を感じました。

また、心理師の三浦恵先生には、患者さんとの関わり方についてのお話を実際に伺う事で、**心理職は人として自身として問われる職業**である事を学び、心理職のあり方について改めて考える事が出来ました。



ディグニティ・セラピーと施設見学について



自分の人生を振り返り、思いを言葉で残すディグニティ・セラピーについて吉田先生からご講義いただき、**人生の意味の再発見や再構築**を行う事が出来ると学びました。また、死と向き合う際に「何を考え、どの様な思い伝えたいのだろうか。」と自身がその立場になった視点で、様々に考える事も出来ました。

ホスピス病棟の見学では患者様とご家族が穏やかな時間を過ごせるように、料理が出来るキッチンや宿泊用の家族室が用意されていました。鍋を囲みながら話をする事なども可能で、家族と過ごす大切な時間や思い出を作る事が出来るそうです。**ご家族の皆様と力を合わせて患者様のケアに寄り添い、過ごしやすい環境を作る事を大切にしていると感じました。**

編集後記

大変お忙しい中、ご講義いただきました山形謙二先生、森明末先生、吉田浩行先生、三浦恵先生、神戸アドベンチスト病院の皆さま、心より感謝申し上げます。

作成：光岡 写真撮影：野村

武庫愛の園幼稚園での学外実習



武庫愛の園幼稚園は建学の精神から「**以愛為園(愛をもって園となす)**」とし、愛の園幼稚園と命名されました。「**知育(あたま)・徳育(こころ)・体育(からだ)・食育(生きる力)**」の4つを教育の柱として、子ども達の育ちを支えています。

武庫愛の園幼稚園の先生方は、子ども達がつまずかないように教えるのではなく、その時に子どもの気持ちを受け止め、どうすれば乗り越えられるのか子ども達が**自ら気付き、主体的に考える力**を身に付けられるようサポートしていると話されました。



濱名先生と福谷先生のお話

法人本部の濱名潔先生のご講義では、保育における「育ち」として、例えば日々の**経験**を通して人の事を思いやる気持ちを育むことを指すことを学びました。保育の立場からのお話を聞いて、幼児や保護者への心理的支援に心理職が**第三者の視点**から現場に加わることが、**新たな視点と起こっている問題の本質**を知ることにつながることを学びました。保育士の福谷先生のお話からは、わらべうたなどの遊びを通じて子どもの**同調性**が高まることを知り、「遊び」が子どもの健康的な身体・精神の成長には欠かせないことを再認識しました。また、温かく見守る姿勢の重要性に気付きました。

子ども達の園内での過ごし方を見学し、実際に皆で楽しそうに遊ぶ姿を見ることが出来ました。その他にも、季節に合わせた装飾品や、一日の予定を**視覚的に**理解できるような掲示物など、子どもを思って細部まで先生方が工夫されていることを感じました。また、実習当日は雨天でしたが、**建物内**にある子どもたちに人気のアスレチックを体験することが出来て、とても新鮮な気持ちになりました。



施設について



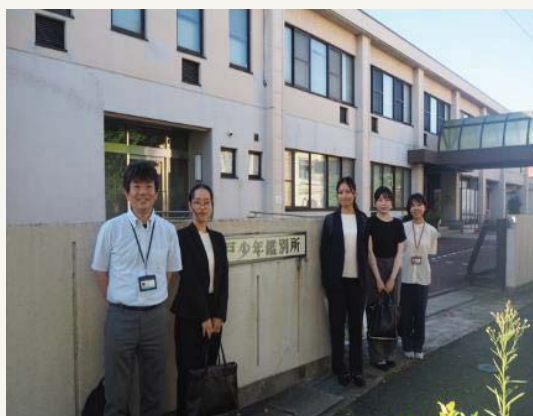
編集後記

大変お忙しいところ、ご講義いただきました濱名先生、福谷先生、また見学の際に快く迎え入れてくださった先生方、園児の皆さんに心より感謝申し上げます。

作成：野村 写真撮影：阿蘇



神戸少年鑑別所での学外実習



少年鑑別所とは、家庭裁判所等の求めに応じて**鑑別・観護処遇**を行うだけでなく、地域社会における非行及び犯罪の防止に関する援助を行う**地域援助**の3つを目的とした、法務省所管の施設です。

神戸少年鑑別所では、法務教官、法務技官をはじめとした職員が**それぞれの持ち味を生かして連携し**、チームとして少年たちを**温かく見守り**、日々関わっております。



山口先生と藤阪先生のお話

地域非行防止調整官の山口先生のお話からは、面接の中で、**少年らが感じたことや体験に思いを寄せて聴く**ことの大切さを学びました。

法務教官の藤阪先生からは、個々の少年に合わせて、日々**試行錯誤**することや、周囲に応じて自身の役割を考えることの大切さを教えていただきました。



施設について

少年たちが数週間、どのような場所で、どのように生活するのかを、施設見学の中で、肌で感じることができました。施設の1つ1つに工夫や対策等があり、少年たちが**規則正しい生活**を、**落ち着いた気持ちで過ごせる**ような取り組みがなされていました。また、そこには、施設をただ見ただけでは知り得ない、少年たちと職員の方々の温かいエピソードが溢れていました。**大人の温かい見守り**を受けて安心を得た少年たちが、今まで抱いてきた人へのイメージを変化させたり、様々なことを考えるきっかけを、ここで得られる理由を感じることができました。

編集後記

大変お忙しい中、ご講義いただきました山口先生、藤阪先生、神戸少年鑑別所の皆さまに心より感謝申し上げます。

作成：谷川 写真撮影：光岡

西宮市立こども未来センターでの学外実習



西宮市立こども未来センターは、福祉・教育・医療が連携し、「**こども自身の自分らしい豊かな人生の実現**」のために、こどもの主体性を尊重した支援を行うことを目的としています。支援は、センター内に限らず、こどもたちやその家族が**地域の中で安心して暮らしていけるように切れ目のない支援**が行われています。例として、みやっこファイルや、アウトリーチ活動があります。



実習指導者の先生のお話

大山先生と井上先生のお話からは、問題が見えにくいこどもへの支援として、こどもと関わりながら支援のためのヒントを集めていくという日々のアセスメント(**関与観察**)が、こどもへのアプローチにつながるということを教えてくださいました。また、こどものための多様な専門家が集まったなかで、専門性を発揮するためにも、**まずは自分の役割を考えることから始まる**と、**多職種連携**において大切なことを教えていただきました。



施設について



福祉・医療・教育の充実した施設があるだけでなく、**個々の発達や活動に応じた**道具や、手作りの椅子等があり、より豊かにこどもたちの発達を促すための工夫がありました。そのように充実した施設であるからこそ、**より多くのこどもたちに支援を提供**できるよう、支援期間が設定されています。西宮市立こども未来センターだけでの充実にとどまらず、**地域で豊かに生活できるよう、地域につなげることを目的**とされていることが伝わってきました。

編集後記

大変お忙しい中、ご講義いただきました大山先生、井上先生、大黒先生、中川先生、藤長先生、西宮こども未来センターの皆さまに心より感謝申し上げます。

作成：谷川 写真撮影：野村



榎坂病院での学外実習



榎坂病院は、主に統合失調症を中心とする**精神科の治療**が行われています。その他にも、精神科外来通院中の患者様を対象にした精神科デイケアも行われています。

昭和40年の開設以来、市役所や保健所、地域援助事業所や訪問看護事業所などと協力しながら**開かれた精神医療**を行い、患者様の日々の生活のサポートに取り組まれています。



服部先生のお話

榎坂病院では心理職がケースワーカーとして働かれていることなどについてお話していただきました。お話にから、私が想像していたより患者様の心境や置かれている状況が多様であることに気がつきました。そして、決めつけず、**患者様一人ひとりと向き合い状況を適切に捉える**ことの重要性を学びました。



施設について

施設を見学させていただき、利用される方々の**自己選択、自己決定**を尊重されていることが伝わってきました。病棟内の掲示板には、患者様からのご意見に対する病院の方針が掲示されていました。それに加えてデイケアでは、プログラムを職員の方々が考えるだけでなく利用者様が考えるものもありました。利用者様の意見を活動に取り入れていくことが生活における**主体性**につながっていくのだと感じました。



編集後記

大変お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただきました服部先生、榎坂病院の皆様に心より感謝申し上げます。

作成：阿 蘓 写真撮影：光岡



神戸真生塾での学外実習



社会福祉法人 神戸真生塾とは、福祉サービスを必要とする方々が地域社会における必要な福祉サービスを**総合的に提供できる支援**を目的とした施設です。その為、乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センター、幼保連携型認定子ども園、自立援助ホーム、小児科を運営しており、人々の**福祉の支え**となっています。

今回は、その中でも児童養護施設の「神戸真生塾」についてのお話を伺いました。



上杉先生と加藤先生のお話

施設長の上杉先生による、現代の児童虐待件数や子育て状況などのお話から児童養護施設の重要性や**児童達に寄り添いながらも指導を行う、家庭的な雰囲気**を目指す心がけを学ぶ事が出来ました。

心理士の加藤先生からは、心理士が抱える悩みや葛藤などのお話を伺いました。児童養護施設の職員でもある心理士は関係機関との連携を図る上で「**心理士としては、どう立ち回っていくか。**」と、心理士としての在り方を考える貴重な学びとなりました。



施設について



クリスマス会や餅つき大会などと季節事の行事が実施されており、施設内に飾られている写真からは児童たちの**沢山の笑顔**が見られました。

また、部屋は**男女別**でさらに**小学生と中高生**に部屋が分かれており、女子児童の小学生部屋ではスーパーボールやお菓子の空箱を用いて、おみせやさんごっこを行っていたりと、**家庭的な空間**が広がっていました。

編集後記

大変お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただきました上杉徹先生、加藤陽子先生、神戸真生塾の皆様にご心より感謝申し上げます。

作成：光岡 写真撮影：野村





西宮市保健所での学外実習



西宮市保健所にて学外実習を行いました。

保健所では、地域の皆さんが健康に暮らせるよう、保健・医療、食品衛生や生活環境など市民生活に密接に関わる様々な取り組みを行っています。こうした幅広いニーズに対応するため、医師、保健師、獣医師、薬剤師、精神保健福祉士、心理士など**多様な職種**が**それぞれの専門性**を活かして**協働**しています。

今回は、健康の増進に関する知識の普及や施策の総合的企画・調整を行う「**健康増進課**」の井戸りか先生に西宮市保健所における心理士の業務内容とその役割について詳しくお話を伺いました。



井戸先生のお話

井戸先生のご講義では、**ひきこもり支援**について、また心理士としての心がけについて学びました。日常にご本人とご家族が密接に関わっていると、**小さな変化に気づきにくくなる**ことがあるため、心理士が**第三者の視点から気づきを促す**役割の重要性を学びました。また、ご本人やご家族と共に考え、**寄り添う姿勢を示す**ことが、**安心感を与える大切な要素**であることも知りました。

さらに、相談業務だけでなく、**こころに関する知識を地域に広める**ため、講座の企画や運営にも積極的に取り組んでおられることがわかりました。



施設について

実際に西宮市保健所の施設内を見学させていただきました。相談に使用される部屋は、**シンプルな部屋で落ち着いた雰囲気**が感じられました。

また、健康増進課では健康づくり・精神保健・成人保健・フレイル対策・西宮いきいき体操・保健業務調査の**6チーム**に分かれ、それぞれの業務に取り組みながらも、必要に応じて互いに相談し合う姿が印象的でした。職員同士の関係も親密で、**協力しながら**業務を進めている様子が伺えました。



編集後記

大変お忙しいところ、ご講義いただきました井戸りか先生、また見学の際に快く迎え入れてくださった職員の皆様に心より感謝申し上げます。

作成：野村 写真撮影：安藤



「心理実習」4期生の実習報告会を行いました



2024年12月10日に、公認心理師資格関連科目「心理実習」4期生の実習報告会を行いました。本学の「心理実習」では医療、教育、福祉、産業・労働、司法の5領域にわたる学外実習を行っており、今年度は全9施設に伺いました。報告会では実習生や教員・教学職員から施設の紹介や施設での学びについて報告・発表がなされ、特に実習生は、各自の実地での感想・学びをそれぞれの等身大の言葉で報告しました。



実習指導者の先生方からの学び

実習生は座学だけでは知り得ぬこととして、多職種連携における情報共有の重要性が生む守秘義務との葛藤や、利用者・対象者の方々を本当の意味で大切にすることはいかなることなのかを学ぶことができました。貴重な学びの機会をご提供くださった先生方に感謝申し上げます。



仲間と共に



今年度の実習生は3名と、例年に比べて少人数でした。それだけに、実習生は例年以上に励ましあい、互いを尊重し、無事に通年の実習を満了することができました。多職種連携の素地にある他者との協調の大切さを、実習生は体験的に学ぶことができたことと思います。この姿を見た次期実習生が、来年度の実習にどう臨むかが今から楽しみです。

編集後記

上記の報告会の後には、現実習生と次期実習生の交流の機会も設けました。年度に応じて形は変えながらも、今後も本科目がますます発展できるよう、教職員一同励んでまいります。

作成：西嶋 写真撮影：嶋田